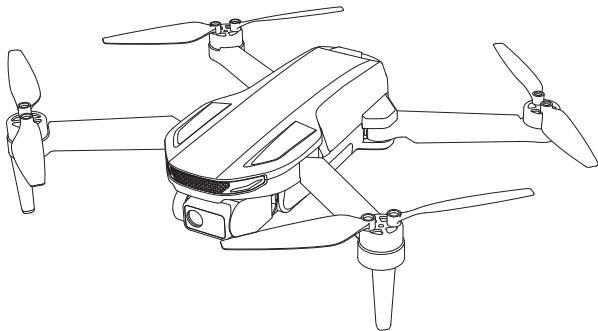


D65

取扱説明書

V 1.0



+1(334)336-0888

jp@deerc.com (JP)

DEERCフェイスブック、LINE友達追加は以下よりご参照ください。



フェイスブックアカウント：
DEERC JP



LINEベーシックID：
@9551ambn

目次

1

製品概要

- 01 同梱品一覧
- 02 機体の各部名称
- 03 送信機の各部名称

2

機能紹介

- 29 フライト機能
- 36 姿勢制御機能
- 39 App 機能
- 49 ドローンステータスライト

3

操作ガイド

- 09 充電
- 11 飛行前の準備
- 16 飛行前のチェックリスト
- 17 離陸

4

付録

- 50 製品基本情報
- 52 製品サポートについて
- 53 よくある質問
- 54 安全上のご注意
- 57 【重要】LiPoバッテリーについて

本マニュアルの使用方法

凡例

“” 重要

“” ヒントとコツ

フライト前にお読みいただくもの

当社では、次の資料が提供されています。

- チュートリアルビデオ
- ユーザーマニュアル

初回使用前に、チュートリアルビデオの視聴と「安全上のご注意」、「【重要】LiPoバッテリーについて」の確認をお勧めします。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

製品を安全にお使いいただくために、下記のQRコードをスキャンしてチュートリアルビデオをご覧ください。



Deerc GPS アプリのダウンロード

下記のQRコードをスキャンして、アプリをダウンロードしてください。



iOS

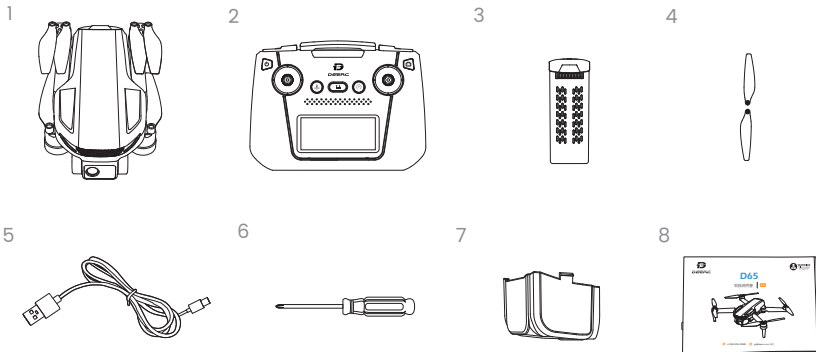


Android APP on Google play



対応OS: iOS 12.0 以降/Android 5.1以降

1.1 同梱品一覧 >>



1 機体

2 送信機

3 機体バッテリー

4 プロペラ

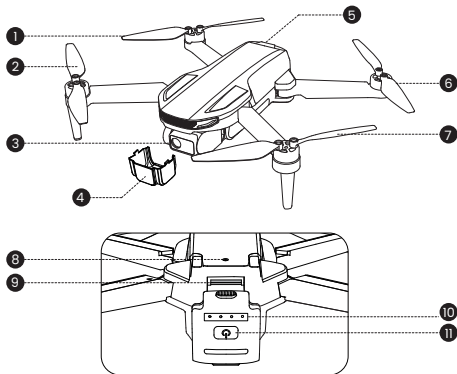
5 USB 充電ケーブル

6 ドライバー

7 ジンバルカバー

8 マニュアル

1.2 機体の各部名称 >>



- 1 プロペラ A
- 2 プロペラ B
- 3 ジンバルとカメラ
- 4 ジンバルカバー
- 5 機体バッテリー
- 6 プロペラ B
- 7 プロペラ A
- 8 オプティカルフロー
ポジショニングレンズ
- 9 TFカードスロット
- 10 バッテリーレベルライト
- 11 電源ボタン

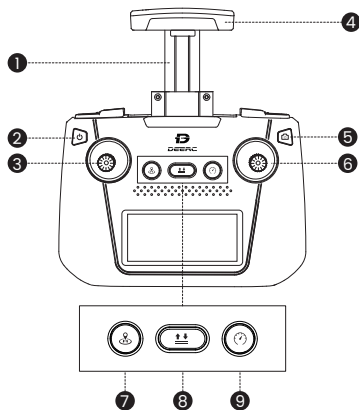


- ・ 電源オン/オフ: 電源ボタン () を3秒間押し続けると、機体電源がオン/オフになります。
- ・ バッテリーレベルライト: 現在のバッテリーレベルを表示するには、機体電源がオフのときに電源ボタンを1回押します。バッテリー残量が少なすぎる場合は、使用する前に充電してください。

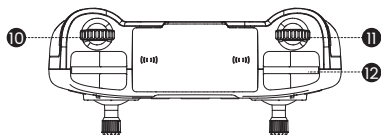
1.3 送信機の各部名称 >>

送信機

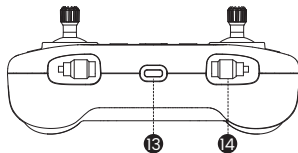
● 正面：



● 上側：



● 下側：



1.3 送信機の各部名称 >>

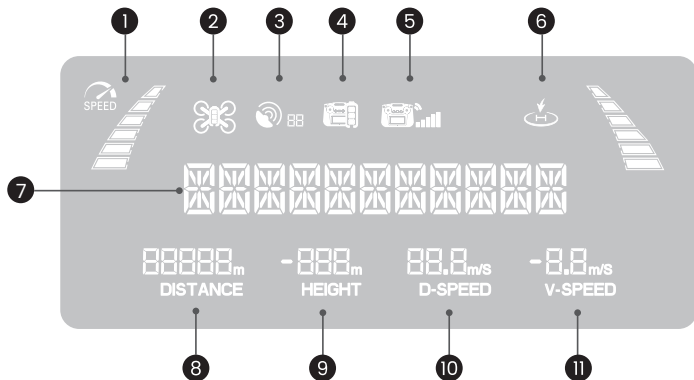
送信機

- | | |
|------------------------|---|
| 1 モバイル端末ホルダー | 2 電源ボタン：1回押してから、長押しします。 |
| 3 左スティック | 4 アンテナ |
| 5 写真撮影：押す
録画：長押し | 6 右スティック |
| 7 リターン：押す
GPS切替：長押し | 8 離陸/着陸 |
| 9 飛行速度切替 | 10 ズームイン/ズームアウト
(ライブビューのみに影響し、録画したビデオには影響しません) |
| 11 ジンバルダイヤル | 12 スマホスロット |
| 13 充電ポート | 14 スティック用収納 |

- 💡 電源ボタン () を1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。バッテリー残量が少なすぎる場合は、使用する前に充電してください。
- 電源オン/オフ：電源ボタン () を1回押してから、3秒間押し続けると電源が入ります。もう一度長押しするとオフになります。

1.3 送信機の各部名称 >>

LCDスクリーン



1.3 送信機の各部名称 >>

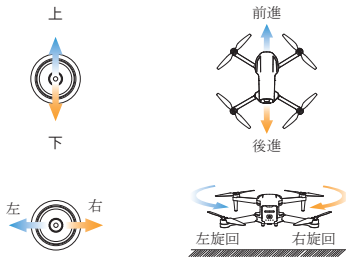
LCDスクリーン

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 飛行速度 | 2 ドローンバッテリーレベル |
| 3 GPS 信号強度 | 4 送信機バッテリーレベル |
| 5 送信機信号強度 | 6 RTH 表示 |
| 7 ドローンのステータス | 8 飛行距離 |
| 9 飛行高度 | 10 水平速度 |
| 11 垂直速度 | |

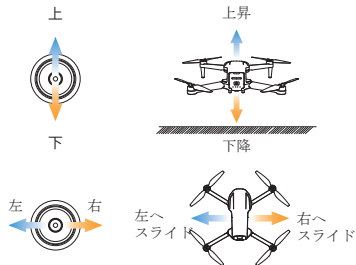
1.3 送信機の各部名称 >>

操作モード

- モード 1:  ボタンを押したまま、 ボタンを 1 回押してから、送信機から「ピ」と鳴るまで押し続けます（この間で  ボタンを押し続けます）。LCD 画面に「R HAND MODE」と表示されると、送信機がモード 1 になっていることを意味します。



左スティック

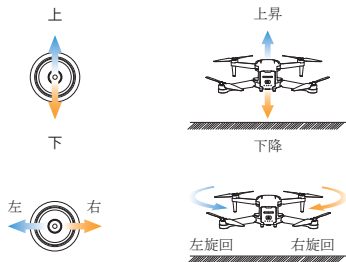


右スティック

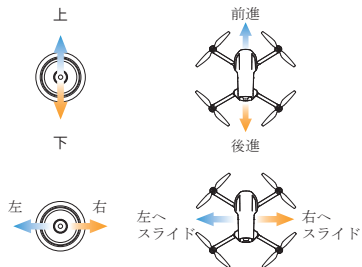
1.3 送信機の各部名称 >>

操作モード

- モード 2: (デフォルト設定、左スティックがスロットルスティックになります。送信機電源を入れたら、直接にモード2になります。)

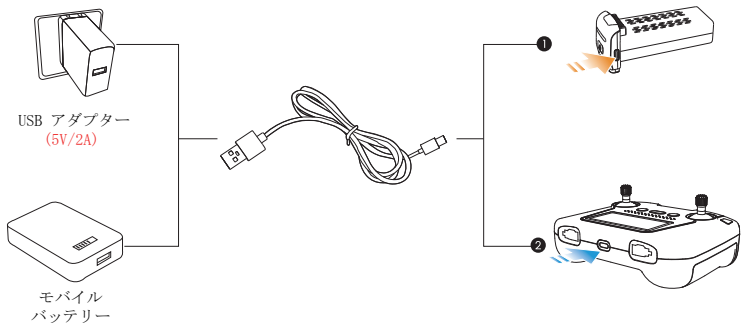


左スティック



右スティック

2.1 充電 >>



- ⚠️ ・充電する前に、「【重要】LiPoバッテリーについて」をよくお読みください。
- ・バッテリーの温度が高すぎる可能性があるため、飛行後すぐにバッテリーを充電しないでください。もう一度充電する前に、室温に冷却するまでお待ちください。
- ・付属のUSB充電ケーブルをご使用ください。
- ・充電中は送信機の電源を入れることはできません。

2.1 充電 >>

1 ドローンバッテリーの充電:

- 1 ドローンからバッテリーを取り外し、USB 充電ケーブルに接続します。
- 2 USB 充電ケーブルをモバイルバッテリーの USB 充電ポートまたは USB アダプター (5V/2A) に差し込みます。
- 3 充電中、バッテリーレベルライトが点滅し続けます。完全に充電されると、すべてのライトが点灯します。
- 4 ドローンのバッテリーを完全に充電するには約 120 分かかります。バッテリーが完全に充電された場合、飛行時間は約 26 分です。

2 送信機の充電:

- 1 USB充電ケーブルを送信機の充電ポートに差し込みます。
- 2 ケーブルのもう一方の端を USB アダプター (5V/2A) またはモバイルバッテリーに接続して充電を開始します。
- 3 充電中、液晶画面に「CHARGING」と表示されます。充電が完了すると、液晶画面に「FULL BAT」と表示されます。
- 4 送信機を完全に充電するには約 120 分かかります。送信機が完全に充電された場合、約 8 時間使用できます。

2.2 飛行前の準備 >>

ジンバルカバー

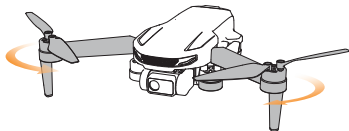


ドローンを逆さまにし、ジンバルカバーの両側を軽く握ってバックルを緩めます。次に、カバーを外側に慎重に引いて取り外します。

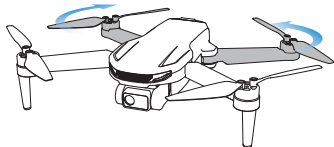
 ドローンの電源を入れる前に、ジンバルカバーとカメラパッドを取り外してください。

アーム

- フロントアームを広げる



- リアアームを広げる

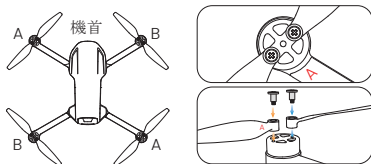


ドローンのアームはすべて折りたたまれた状態で工場に梱包されます。まず前側のアームを展開し、次に後側のアームを展開します。

2.2 飛行前の準備 >>

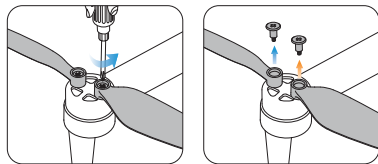
プロペラ

● 取り付け:



正しくプロペラをモーターシャフトに取り付けられていないと、ドローンは飛行しません。各プロペラには「A」または「B」のアルファベットが付いています。ネジを使用してプロペラをモーターシャフトに固定し、各ネジを時計回りに回します。

● 取り外し:

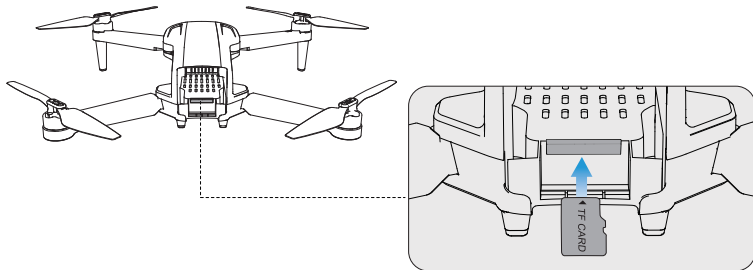


プロペラを取り外すには、ドライバー（付属）を使用してネジを反時計回りに回転させ、プロペラを取り外します。プロペラを取り外すときは、必ずモーターを持ってください。

- ⚠ 飛行前に、プロペラが正しく取り付けられ、締められていることを確認してください。
- プロペラの実付け、取り外しの際は、怪我をしないように注意してください。
- プロペラは、ドローンが工場て梱包される前に取り付けられます。

2.2 飛行前の準備 >>

TF カード



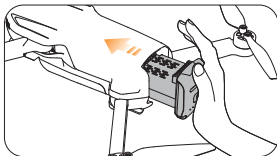
写真やビデオを保存するには、ドローンにバッテリーを挿入する前に、TF カード（TF カードは別途でご購入ください。）をスロットに挿入します。最大 128GB のTF カード（クラス 10 以上）をサポートしています。

2.2 飛行前の準備 >>

ドローンバッテリー

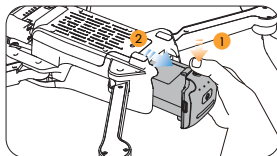
● 取り付け:

*バッテリーを取り付ける前に、取り外し可能な絶縁パッド/バンドが付いているかどうかを確認してください。付いている場合は取り外してください。



バッテリーをドローンに正しく押し込みます。「カチッ」という音が聞こえるまでバッテリーをしっかりと取り付けてください。

● 取り外し:



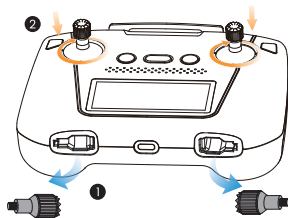
バッテリーのロックボタンを押したまま、バッテリーをドローンから引き出します。



- ・バッテリーはしっかりと取り付けてください。そうしないと、飛行の安全性が影響を受ける可能性があります。ドローンは飛行中に停電により墜落する可能性があります。
- ・バッテリーの取り付け/取り外しは、電源がオフのときにのみ行ってください。

2.2 飛行前の準備 >>

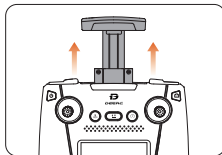
スティック



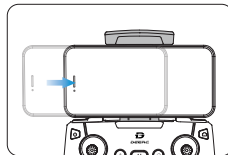
スティックを収納スロットから取り出し、送信機に取り付けます。

スマホホルダー

- 拡張可能なスマホホルダー

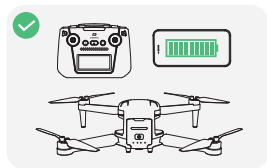


- スマホを挿入する

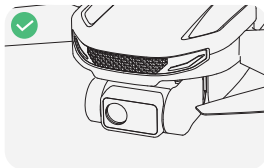


スマホホルダーを広げて、スマホをその中に置きます。クランプを調整してスマホを固定します。

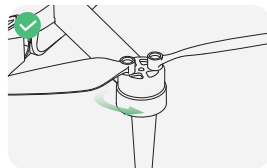
2.3 飛行前のチェックリスト >>



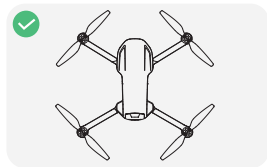
送信機、スマホ、ドローンのバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。



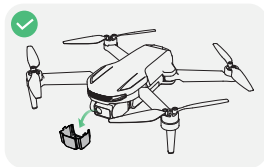
カメラが汚れていないことを確認してください。



モーターを妨げるものがないことを確認してください。



ドローンアームが展開されていることを確認してください。



飛行前に必ずジンバルカバーを取り外してください。

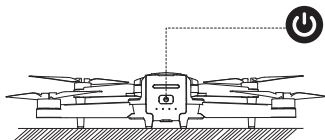


必ず当社が提供する付属品をご使用ください。

2.4 離陸 >>

ペアリング

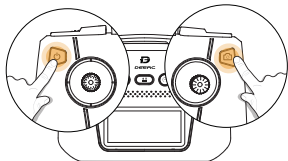
- ・ このマニュアルに記載されているすべての操作は、モード1を使用して説明されています。
- ・ ドローンを操作する場合は、必ず屋外のオープンな場所で行ってください。

**1** ドローンの電源を入れる:

電源ボタン（）を長押しして、ドローンの電源をオンにします。機首を前に向けて平らな面に置きます。ドローンステータスライトが点滅し始めます。ドローンは電源オンのサウンドが鳴ります。

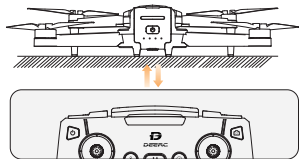
2.4 離陸 >>

ペアリング



2 送信機の電源を入れる:

写真撮影ボタンを押したまま、電源ボタン() を 1 回押してから、3 秒間押し続けると送信機の電源が入ります。送信機から「ピ」と鳴ります。液晶画面に「POWER ON」と表示されます。



3 自動ペアリング:

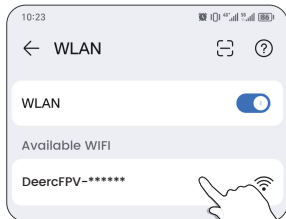
送信機とドローンが正常にペアリングされると、送信機から「ピ」と鳴り、ドローンのインジケータが点灯し、液晶画面の送信機信号強度 () が最大になり、点灯します。

! ジンバルセルフチェック: ペアリング後、ドローンはジンバルの各部品と機能が正常に動作しているか自動的にチェックします。これは約 8 秒間続きます。セルフチェック中はドローンのライトが点滅し、完了するとライトは点灯になります。

2.4 離陸 >>

Wi-Fi の接続

💡 スマホの Wi-Fi 設定に進む前に、ペアリングが完了していることを確認してください。



- 1 スマホの Wi-Fi 設定に移動します。
- 2 ドローンの Wi-Fi ネットワークに接続します: DeercFPV-*****。
- 3 Deerc GPSアプリを実行します。アプリのインターフェース内にドローンのリアルタイム画面が表示されると、接続が成功したことが確認されます。

2.4 離陸 >>

Wi-Fi の接続

- 💡 ・スマホをドローンの Wi-Fi に接続するには、時間がかかる場合があります。接続が正常に確立されるまでしばらくお待ちください。
- ・WIFI接続で問題が発生したり、APPでの画像送信が表示されない場合は、スマホの Bluetooth、モバイル データ、VPN を無効にすることをお勧めします。または、スマホを機内モードに切り替えて、再接続を試みます。
- ・アプリによって要求されたすべての権限が付与されていることを確認してください。
- ・場合によっては、アプリの「」から適切な Wi-Fi チャンネルに切り替えることで、環境干渉を回避し、リアルタイム画面の品質を向上させることができます。チャンネルを切り替えた後、ドローンのWi-Fiに再接続してください。

⚠ 機体 Wi-Fi はインターネットにアクセスできません。スマートフォンでは下記の提示が表示される場合があります：

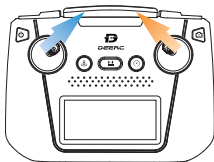
- 接続が安全ではないことを表示
- インターネット接続がないことを表示
- モバイルデータへ切り替える提案を表示

(提示はスマートフォンのモデルによって異なる場合があります。)

これらの提示を無視してください。提示が表示されたら、現在の Wi-Fi に接続したままにするオプションを選択してください。

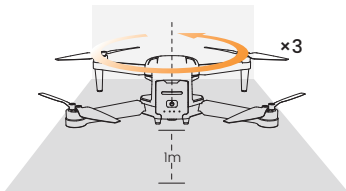
2.4 離陸 >>

コンパスリセット



● ステップ1:

両方のスティックを上部の内側の隅に倒して、コンパスリセットに入ります。送信機から「ピ」と鳴り、校正が開始されたことが示されます。これでステップ2に進むことができます。

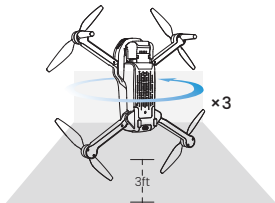


● ステップ2:

ドローンを地面と平行に保ち、送信機から「ピ」と鳴るまでドローンを3回回転させます。その後、ステップ3に進みます

2.4 離陸 >>

コンパスリセット



● ステップ3:

ドローンの機首を上に向け、送信機から「ピピ」と鳴るまでドローンを3回回転させます。これは、コンパスリセットが正常に実行されたことを意味します。

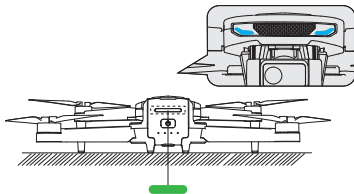


- ・安定した飛行を確保するために、毎回飛行前にコンパスリセットを実行することをお勧めします。
- ・コンパスリセットを実行する間、ドローンを地上約1メートルの高さに保持することをお勧めします。
- ・磁鉄鉱の堆積物や、駐車場、鉄筋のある地下室、橋、自動車、足場などの大きな金属構造物の近くなど、磁気干渉が発生する可能性がある場所ではコンパスリセットを行わないでください。
- ・コンパスリセット中は、強磁性体を含む物体（スマホなど）をドローンの近くに置かないでください。

2.4 離陸 >>

GPS信号検索

💡 屋内にいるときは GPS モードを使用しないでください。



2.4 離陸 >>

GPS信号検索

コンパスリセット後、ドローンを平らな面に置きます。周囲に外部信号干渉源がないことを確認してください。

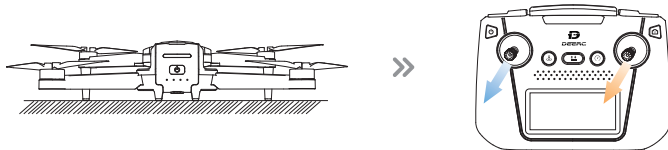
ドローンは自動的に GPS 信号の検索を実行します。ドローンの前部インジケーターが青色に点灯し、後部インジケーターが緑色に点灯すると、ドローンは GPS 信号の位置を正常に特定できます。液晶画面上の GPS 信号アイコン () で示される衛星接続数が「8」以上です。



- ・前部インジケーターが青色に点灯し、後部インジケーターが赤色に点灯する場合は、GPS 検索がまだ進行中であることを示します。
- ・GPS信号が弱い場合、または屋内でドローンを飛行させる予定がある場合は、前部インジケーターが青で点灯し、後部インジケーターが赤で点灯する場合があります。離陸させたい場合は、送信機の  を 2 秒間押し続けると、GPSモードがオフにします。LCD画面に「ATTI MODE」と表示され、ドローンは姿勢モードに変わると離陸できます。ただし、GPS関連の機能はすべて使用できなくなりますのでご注意ください。

2.4 離陸 >>

ジャイロリセット



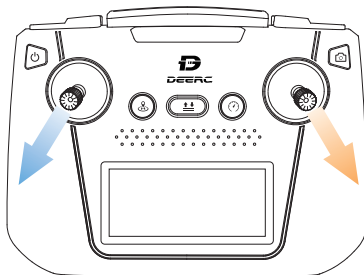
ジャイロリセットする前に、必ずドローンを平らな面に置いてください。左スティックと右スティックを同時に左下側に倒して、ジャイロリセットします。ドローンのインジケータライトが点滅してから点灯に変わり、ジャイロリセットが完了したことを示します。



ジャイロリセットは、飛行の安定性を確保するために、衝突または事故の後にのみ必要です。

2.4 離陸 >>

ロック解除



スティックを外側の下隅まで倒します。モーターが回転し始め、ドローンのロックが解除されます。

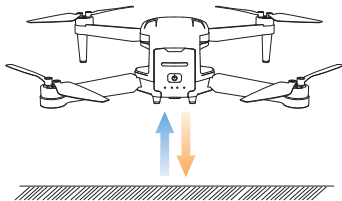
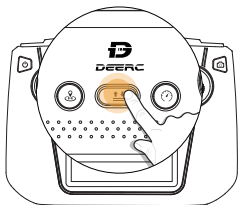


モーターをロックする：モーターをロックするには、上記の操作を繰り返します。

2.4 離陸 >>

離陸/着陸

💡 離陸前に必ずモーターのロックを解除してください。



離陸

↑↓ ボタンを押すと、ドローンが自動的に 1.5m ほどの高さに上昇します。
左 / 右スティックでドローンを制御できるようになります。



着陸

飛行中に ↑↓ ボタンを押すと、ドローンは自動的に地面に着陸します。

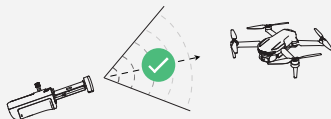
2.4 離陸 >>

離陸/着陸

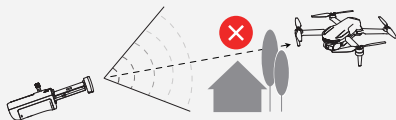
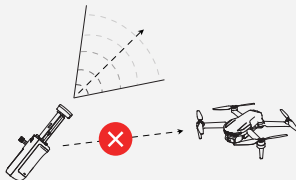


ドローンを操作するときは、送信機とドローンの間の方向と距離を定期的に調整して、ドローンが常に最適な通信範囲内に飛行するようにすることが重要です。

最適な受信範囲:

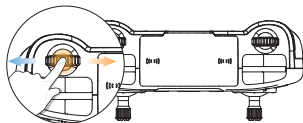


信号が弱い:



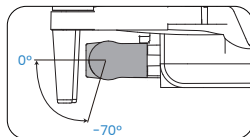
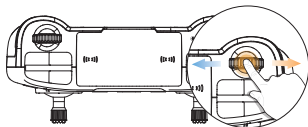
3.1 フライト機能 >>

ズーム



ズームインするには、ズームダイヤル ⊕ を右にスクロールします。ズームアウトするには、ズームダイヤル ⊖ を左にスクロールします。

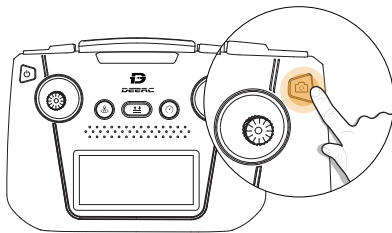
ジンバルダイヤル



ジンバルは、カメラに安定性を提供し、鮮明で安定した画像やビデオを撮影できるようにします。制御チルト範囲は-70° ~0° です。送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラの傾きを制御します。

3.1 フライト機能 >>

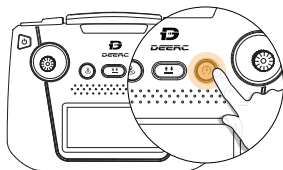
写真撮影/録画



- 1 送信機の  ボタンを押すと、写真を一枚撮影します。その際、送信機から「ピッ」と鳴ります。
- 2 送信機の  ボタンを長押しすると、送信機から「ピピ」と鳴り、ビデオ録画が開始されます。録画を停止するには、同じボタンをもう一度長押しします。

3.1 フライト機能 >>

飛行速度切替



このドローンには、低速、中速、高速の3つの速度モードがあります。速度を切り替えるには (1) ボタンを 1 回押します。デフォルトでは低速に設定されています。

● 低速：



送信機から「ピ」と鳴ります。液晶画面に表示されるのは、「CAMERA MODE」()

● 中速：



送信機から「ピピ」と鳴ります。液晶画面に表示されるのは、「NORMAL MODE」()

● 高速：



送信機から「ピピピ」と鳴ります。液晶画面に表示されるのは、「SPORT MODE」()

3.1 フライト機能 >>

リターン機能(RTH)

- リターン (RTH) 機能は、ドローンを記録されたホームポイントに戻します。この機能は、ドローンが GPS モードの場合にのみ有効できます。
- ドローンのデフォルトのホームポイントは、最初に強い GPS 信号を受信した場所です（このとき、LCD 画面の GPS 信号アイコン（）で示される衛星接続数は「8」以上です）。ドローンはその瞬間の離陸位置をホームポイントとして記録します。飛行中にドローンが新しい場所に着陸すると、次の離陸位置が新しく記録されたホームポイントになります。

* RA: アプリ設定で設定された帰還高度。（デフォルトのRAは20メートルです。）

1 スマート RTH:

GPS 信号が強く（衛星接続 ≥ 8）、ホームポイントが以前に記録されている場合は、 ボタンを押します。LCD 画面に「RTH MODE」と表示され、スマート RTH が有効になっていることを示します。ドローンは自動的にホームポイントに帰還飛行を開始します。

RTH 中に  ボタンを押すと、LCD 画面に「EXIT RTH」と表示され、ドローンはすぐに RTH 機能を終了します。

2 フェールセール RTH:

フェールセーフ RTH は、次の場合に有効になります：

3.1 フライト機能 >>

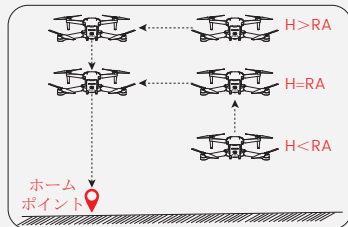
リターン機能 (RTH)

1. ドローンは強力な GPS 信号を受信した（衛星接続 ≥ 8 ）；
2. 事前に記録されたホームポイントがある；
3. 送信機とドローン間の接続が 6 秒以上失われた；
4. コンパスは干渉されていない；

フェールセーフ RTH が有効になると、ドローンは事前に記録されたホームポイントに自動的に帰還飛行を開始します。フェールセーフ RTH 中にドローンと送信機間の接続が再確立された場合は、RTH を手動で終了できます。

💡 スマート RTH およびフェールセーフ RTH で 2 つの帰還手順は次のとおりです。

- a 飛行高度 $>RA$ ：ドローン現在の高度が RA 以上の場合、ドローンは現在の高度を維持し、ホームポイント上空に飛行してから地上に降下します。
- b 飛行高度 $<RA$ ：ドローン現在の高度が RA より低い場合、ドローンはまず RA まで上昇し、そしてホームポイント上空を飛行してから地上に降下します。



3.1 フライト機能 >>

リターン機能 (RTH)

③ 低電圧 RTH:

飛行中バッテリー残量が低すぎる場合、または帰還するのに十分な電力がない場合、ドローンの損傷やその他の危険を避けるために、できるだけ早くドローンを着陸させる必要があります。バッテリー電力不足によるリスクを防ぐため、ドローンのバッテリー残量が少なくなると、低電圧 RTH 機能が自動的に起動されます。残りの電力に応じて、次の 2 つの場合があります。

低電圧 RTH の第 1 段階：ドローンはホームポイントから高さ 20 メートル、距離 30 メートルの場所に帰ります。ドローンが帰還している間、LCD 画面には「RTH MODE」と表示されます。

ドローンが戻ってきた後は、ホームポイントを中心とした半径 30 メートル、高さ 20 メートルの「安全ゾーン」内での飛行に制限されます。ドローンはこのゾーンから出ることはできません。

* バッテリー残量が低電圧 RTH を起動するためのしきい値に低下する前に、ドローンが既に安全ゾーン内を飛行している場合、低電圧 RTH の第 1 段階は実行されないことに注意してください。

3.1 フライト機能 >>

リターン機能 (RTH)

低電圧 RTH の第 2 段階：ドローンは自動的にホームポイントに戻ります。ドローンが帰還している間、ドローンのインジケーターが赤く速く点滅します。

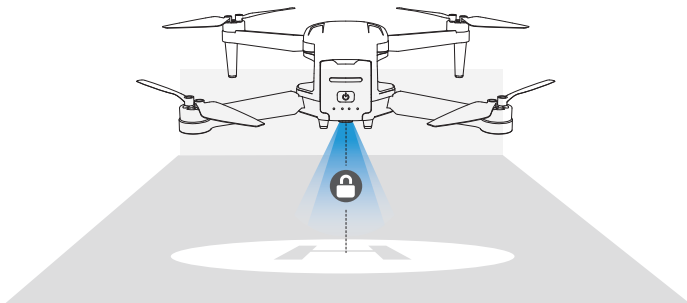
*飛行距離が 5 メートル以内の場合、ドローンはそのまま地面に着陸しますのでご注意ください。



- ・RTH 中、ドローンは障害物を回避できません。
- ・GPS 信号が弱いかわ利用できない場合、RTH を有効にすることはできません。ed.

3.2 姿勢制御機能 >>

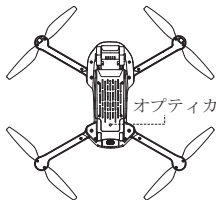
高度維持



ドローンは、右スティックを放した後も高度を維持する高度維持機能を備えています。
(右スティックは自動的に中央に戻ります)

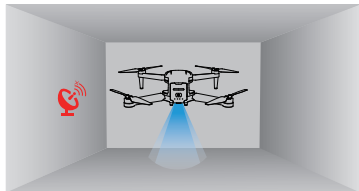
3.2 姿勢制御機能 >>

オプティカル フロー ポジショニング



オプティカルフローモジュール

オプティカルフローポジショニングはカメラモジュールから構成されます。視覚画像を通じて機体の位置情報を取得し、機体が現在位置を正確に維持します。



オプティカルフローポジショニング システムは通常、GPS 信号が弱いか利用できない屋内環境で使用されます。オプティカルフロー モードの最適な使用高度は 0.5 ～ 3 メートルです。

! オプティカルフローポジショニングシステムの精度は、光の強度や表面テクスチャに影響されやすいです。オプティカルフローポジショニング機能が利用できなくなると、高度維持機能が自動的にオンにします。以下の場所で操作する場合にはご注意ください：

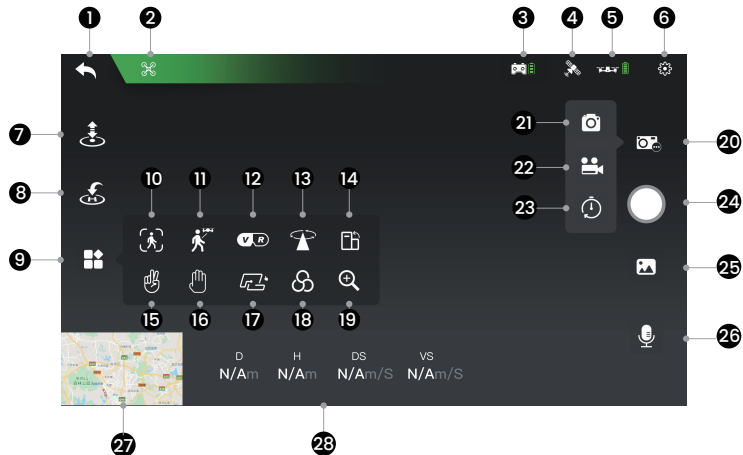
3.2 姿勢制御機能 >>

オプティカル フロー ポジショニング

- はっきりした模様やテクスチャのない地表面
 - 非常に暗い、または非常に明るい地表面
 - 光が頻繁に、または急激に変わるエリア
 - 動く面または物体の上空（人混みの上、強風に煽られるやぶや草の上など）
 - 水面または透明な地表面
 - 反射率が高い地表面（鏡など）
 - モノクロの地表面（黒色、赤色、緑色など）
 - 同じ模様やテクスチャが繰り返し現れる地表面（同じデザインのレンガグリッドなど）
 - 機体が過度に高速で飛行しないでください。
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。
 - センサーを傷つけたり、加工したりしないでください。粉塵や湿気の多い環境で機体を使用しないでください。
 - オプティカルフローポジショニングが地表面のテクスチャを認識して機体動きの情報を取得できるように、地表面のテクスチャがはっきりしていて、十分な明るさがあることを確認してください。

3.3 APP 機能 >>

APP インターフェース



3.3 APP 機能 >>

APP インターフェース

- 1 戻る() : このアイコンをタップすると、メインメニューに戻ります。
- 2 システムステータス() : 飛行状況や各種警告メッセージを表示します。
- 3 送信機バッテリーレベル() : 送信機現在の電池残量をリアルタイムで表示します。
- 4 GPS信号強度() : 現在の GPS 信号強度を表示します。
- 5 機体バッテリーレベル() : ドローン現在のバッテリー残量をリアルタイムで表示します。
- 6 設定() : タップして設定インターフェイスに入ります。飛行高度/距離、帰還高度などの設定を変更できます。
- 7 ワンキー離陸/着陸() : アイコンをタップし、指示に従って離陸/着陸できます。
- 8 リターン() : ドローンは最後に記録されたホームポイントに戻ります。
- 9 多機能()
- 10 画像フォロー() : ターゲットを選択すると、ターゲットがどのように動いても、カメラは常にターゲットに向けられます。空中でのドローンの位置は変わりません。(ターゲットの移動速度が速すぎないように注意してください。)
- 11 GPSフォロー() : ドローンは操縦者から一定の距離を保ち、ペアリングされたスマホのGPS位置を追跡します。

3.3 APP 機能 >>

APP インターフェース

- 12 VR モード () : まずスマホを VR メガネ (別途でご用意ください) とペアリングします。次に、この機能を使用して 3D ライブ フィードをリアルタイムで視聴します。
- 13 サークル飛行 () : ドローンはある地点を中心に飛行します。
- 14 縦向きスクリーン () : 撮影画面が横向きから縦向きに変わります。
- 15 ジェスチャー撮影 () : このモードでは、「V」ジェスチャーを顔の近くにかざすことでドローンカメラのシャッターを切ることができます。(ドローンカメラは顔に向けてください。)
- 16 ジェスチャー録画 () : このモードでは、伸ばした手のひらを顔の近くにかざすことでドローンカメラのシャッターを切ることができます。(ドローンカメラは顔に向けてください。)
- 17 軌跡飛行 () : ドローンがスマホの画面上に描いた飛行経路に沿って飛行します。
- 18 カメラフィルター ()
- 19 ズーム () : タップして拡大/縮小します。
- 20 撮影モード ()

3.3 APP 機能 >>

APP インターフェース

- 21 写真を撮る () : タップすると写真機能が利用できます。
- 22 録画 () : タップすると録画機能が利用できます。
- 23 タイムラプス () : タップしてタイムラプス撮影を使用します。
- 24 シャッターボタン ( )
- 25 アルバム () : タップしてカメラで撮影した写真やビデオをプレビューします。
- 26 録音 () : ビデオ撮影中にスマホで音や音声を録音します。
- 27 マップ () : ミニマップをタップして、カメラビューとマップビューを切り替えます。
- 28 飛行パラメータ
- 飛行高度: ($\frac{H}{N/A_m}$) ホームポイントからの垂直距離
 - 飛行距離: ($\frac{D}{N/A_m}$) ホームポイントからの水平距離
 - 水平速度: ($\frac{DS}{N/A_{m/s}}$) ドローンの水平方向の速度
 - 垂直速度: ($\frac{VS}{N/A_{m/s}}$) ドローンの垂直方向の速度

3.3 APP 機能 >>

初心者モード

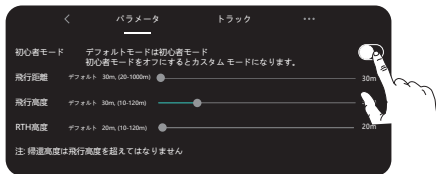
初心者パイロットは、まず初心者モードを使用してドローンに慣れることをお勧めします。デフォルトの動作モードである初心者モードでは、次の設定が適用されます。

- 1 飛行距離は 0 ～ 30 メートルに制限されます。
- 2 飛行高度は 0 ～ 30 メートルに制限されます。
- 3 RTH 高度はデフォルトで 20 メートルに設定されています。

上記の設定を変更するには、まず初心者モードをオフにする必要があります。

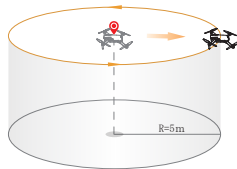
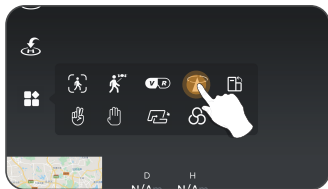


設定



3.3 APP 機能 >>

サークル飛行

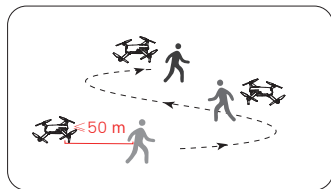
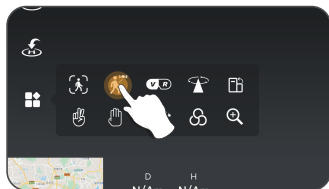


- 1 まずに  アイコンをタップし、次に  アイコンを選択し、提示に従ってサークル飛行機能を有効にします。サークル半径を設定できます。
- 2 この機能を有効にした瞬間、機体は現在の飛行位置を「円心」として記録します。その後、その点の周りを時計回りに飛行します。(デフォルト半径: 5 メートル)
- 3 サークル飛行を終了するには、 アイコンをもう一度タップしてください。

3.3 APP 機能 >>

GPS フォロー

GPS フォロー機能が有効になっている場合、ドローンはスマホの GPS 信号に従って飛行します。（ドローンと送信機間の接続が強くて安定していることを確認してください。）



3.3 APP 機能 >>

GPS フォロー

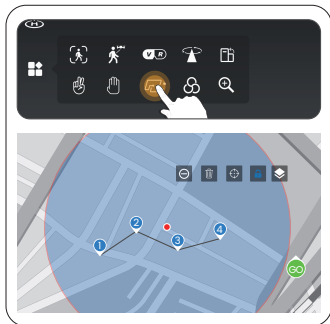
- 1 ドローンの飛行距離が 50 メートル以内であることを確認してください。まずに  アイコンをタップし、次に  アイコンを選択します。
- 2 提示に従って GPS フォロー機能を有効にします。ドローンはスマホの GPS 信号を追跡します。
- 3 GPS フォロー機能を終了するには、 アイコンをもう一度タップしてください。

-  ・GPSフォロー機能は飛行距離が50 ートル以内の場合のみ使用可能です。
- ・GPSフォロー中周囲に注意してご使用ください。ドローンには障害物回避機能は搭載されていません。
- ・スマホのGPS信号が弱すぎる場合、GPSフォロー機能が作動しにくい場合があります。これは、周囲の建物、樹木、モバイル ネットワークの混雑などからの信号干渉によって引き起こされる可能性があります。

3.3 APP 機能 >>

軌跡飛行

軌跡飛行機能を利用する前に、スマホをインターネットに接続し、地図アイコンをタップして地図を事前にロードします。自動読み込みを行います。軌跡飛行のマップを拡大することをお勧めします。

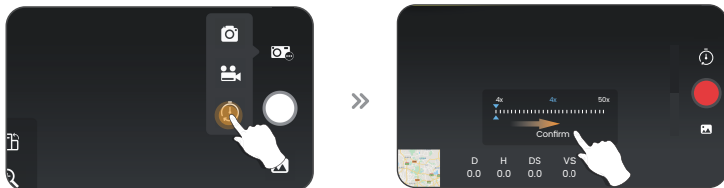


- 1 まず  アイコンをタップし、次に  をタップします。
- 2 画面を数十回(16回まで)タップして飛行経路を作成できます。「GO」をタップしてルートを送信します。ドローンがタップした点を順番に結んで作られた経路に沿って飛行します。
- 3 軌跡飛行を終了するには、 アイコンをもう一度タップするか、方向スティックを任意の方向に倒します。

 人、動物、小さくて薄い物体（木の枝や電線など）や透明な物体（ガラスや水など）に向かってドローンを飛行させないでください。

3.3 APP 機能 >>

タイムラプス



- 1 まず  アイコンをタップし、次に  をタップしてタイムラプス撮影を使用します。
- 2 スライドしてビデオの再生速度を選択し、そしてもう一度タップして確認します。
- 3 シャッター  をタップすると、タイムラプス撮影が始まります。
- 4 もう一度シャッター  をタップすると録画が停止します。

3.4 ドローンステータスライト >>

ライトのステータス	意味
 前部青、後部赤、高速点滅	ドローンの電源を入れた後、ペアリングに失敗しました。
 前部青、後部赤、点灯	GPS 信号を検索中 /GPS モードが正常に終了しました。
 前部青、後部緑、点灯	GPS 信号の検索に成功しました。
 前部青、後部赤、ゆっくり点滅	低電圧 RTH の第一段階に入りました。
 前側青、後部赤、速く点滅	低電圧 RTH の第二段階に入りました。
 前側青、後部緑と赤が交互に切り替わります。	コンパスエラー
 前後で交互に点滅：前部青、後部赤	接続が失われた / 衛星信号が失われた

4.1 製品基本情報 >>

● 機体：

型番： D65	重量： 246g/8.7oz
最大飛行時間： 26 分 (無風の環境で)	最大飛行高度： 120m/394 ft
最大耐風速： 5.5m/s	最大離陸高度： 3000m/9842 ft
動作環境温度： 0° to 40° C	最大飛行速度： 3m/s
サイズ： 296*208*53 mm (展開した状態)	147*85*53 mm (折りたたんだ状態)
最大可能搭載重量： リモート ID 以外、荷物を搭載することはお勧めしません。	

● 機体バッテリー：

容量： 1820mAh	電圧： 7.7V
種類： リチウムイオンポリマー電池	電力量： 14.014Wh
充電環境温度： 5° to 40° C	
充電時間： 約 120 分	

4.1 製品基本情報 >>

● カメラ：

周波数：2417MHz	最大操作距離：800m/2625 ft (室外で、障害物や干渉がない場合)
写真解像度：3840×2160P (TF カードに保存した場合)	3840×2160P (スマホに保存した場合)
動画解像度：2560×1440P@30fps (TF カードに保存した場合)	1280×720P@30fps (スマホに保存した場合)
レンズ：FOV:100°	写真フォーマット：JPEG/JPG
動画フォーマット：MP4	サポートするファイルシステム：FAT32
サポートする TF カード：最大 128 GB の容量の TF カード (Class 10 以降) をサポートしています。	

● ジンバル：

安定化：2 軸（チルト、ロール）	制御可能範囲：チルト -70° ～ 0°
機械的範囲：チルト +35° ～ -90° ；ロール -40° to +40°	

● USB 充電ケーブル：

入力：5V/2A	定格出力：≤10W
----------	-----------

4.1 製品基本情報 >>

- 送信機：

周波数：2452-2474MHz	最大操作距離：1000m/3281 ft (室外で、障害物や干渉がない場合)
電池：3.7V 3000mAh リチウムイオン電池	
動作環境温度：0° to 40° C	
充電時間：120 分	

4.2 製品サポートについて >>

さらにサポートが必要な場合は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先（日本語対応可）

メール：jp@deerc.com

LINE ベーシック ID：@9551ambn

フェイスブックアカウント：DEERC JP

4.3 よくある質問 >>

問題	可能な原因	対策
モーターが始動しない	GPS 信号が弱い	(1)GPS の受信状態が強い場所で操作していることを確認してください。 (2)屋内で操作する場合は、RTHボタンを長押ししてATTIモードに切り替えます。 (ページ 24を参照)
	ドローンのバッテリー残量が低下しています (ドローン後部の赤ライトが継続的に点滅していることからわかります)。	付属の充電ケーブルを使用してドローンを充電します。 (ページ 09を参照)
	コンパスは調整されていません (ドローン後部の緑ライトが継続的に点滅していることからわかります)。	コンパスリセットを実施します。詳しい手順については、ユーザーマニュアルの「コンパスリセット」セクションを参照してください。 (ページ 21を参照)
	ジンバルはセルフチェック中です (前部の青ライトが点滅、後部の赤ライト点滅)。	完了するまで 8 秒待ちます。ライトが点灯に変わります。
不安定な飛行または異常な姿勢	建物の近くや障害物のあるエリアを飛行すると、GPS 信号が不安定になります。	障害物のないオープンスペースでドローンを操作してください。
	コンパスが干渉を受けた	(1)直ちにドローンを手動で着陸させ、コンパスを調整します。 (2)建物、電線、信号塔から離れていることを確認して、別の場所で操作してみてください。
	プロペラの変形または損傷	新しいプロペラと交換してください。
ジンバルが安定しない	電源を入れる前にジンバル カバーを取り外さなかったため、ジンバル保護が作動しました。	電源を入れる前に、ジンバル カバーが取り外されていることを確認してください。
	ドローンが水平な位置に置いていません。	電源を入れる前にドローンを平らな面に置き、ジンバルのセルフチェックが完了するまで待ちます。
	コンパスリセット中	コンパスリセット中はジンバルは機能しません。コンパスリセット後、ドローンを水平面に置き、ジンバルが安定して中心に戻るまで待ちます。
	草や砂などの凹凸のある表面にドローンを配置しました。	ドローンを水平に着陸パッド上に配置するか、別の平らな面に置きます。ジンバルの下に十分なスペースがあることを確認し、ジンバルの安定化に影響を与える可能性のある障害物を避けてください。

4.3 よくある質問 >>

問題	可能な原因	対策
ライブフィードに遅れがあり、画像伝送距離が短くなります。	Wi-Fi 信号が干渉を受けた	1. オープンで干渉のない場所で飛行させてください。 2. 干渉が発生した場合は、Wi-Fi チャンネルを手動で切り替えて回避します。方法: モーターのロックを解除する前に、アプリの「  」に移動し、「...」をタップして適切なチャンネルに切り替えます。
	スマホの Wi-Fi パフォーマンスの問題	さまざまなスマホを試してください。

4.4 安全上のご注意（必ずお読みください） >>



警告

保護者の方へ

当製品に使用されている小さな部品は誤飲・窒息の危険があります。3歳未満のお子様に手を触れさせないようにご注意ください。



注意

ここに記載されている注意事項は、本製品を安全にお使い頂き、損害や危害を未然に防ぐためのものです。必ずお読みください。

1. GPS機能の利用について

★本製品はGPS（グローバル・ポジショニング・システム）搭載の屋外専用機ですが、全ての環境/フライトにおいて、GPS信号の捕捉や、信号強度、自動帰還をお約束するものではありません。常にGPS信号をロストする可能性を考慮し、緊急時にはご自身の手動操作で戻せる目視範囲内でのみフライトしてください。

4.4 安全上のご注意（必ずお読みください） >>

2. フライトについて

★製品をご利用の前に、国土交通省が定めたガイドラインを参照し、ご自身が利用する環境と照らし合せ、問題がない事を確認してから製品をご利用ください。

★【無人航空機（ドローン、ラジコン機など）の安全な飛行のためのガイドライン】

<http://www.mlit.go.jp/common/001228024.pdf>

★当製品は屋外でのフライトを推奨します。ただし、風のある日の屋外では、ドローンが風の影響を受け、安全に飛行させられないことも少なくありません。風のない日のフライトをお勧めします。

★屋外で飛行させる場合、高圧線・公共施設・空港・道路・線路が近くにある場所や周りに人がいる場所、建物がある場所では絶対にフライトさせないでください。

★電波障害に気をつけてください。ほかの電波使用機器からの影響により、ラジコン用の電波が干渉を受けなどして、ドローンの安全な飛行が妨げられる場合もあります。物理的にも電波的にも障害となるものが無い、見晴らしの良い広いエリアが理想的です。万が一の突発的に起こる電波障害を考慮し、常にあらゆるリスクに備えてください。

★プライバシー確保へご配慮ください。本製品にはカメラが搭載されています。録画/撮影した映像の対象によってはプライバシーの侵害となる恐れがあります。事前に周囲をよく確認していただき、プライバシー確保へご配慮ください。

★プロペラには向きがあります。交換する際は説明書をご参照の上正しく取り付けてください。正しく取り付けないと正常に飛行できません。

4.4 安全上のご注意（必ずお読みください） >>

3. 怪我にご注意ください

- ★当製品は14歳未満のお子様には使用させないでください。また、お子様の手の届く場所に保管しないでください。
- ★近くに対象年齢未満のお子様がいるところでは使用しないでください。
- ★当製品は14歳未満のお子様には使用させないでください。また、お子様の手の届く場所に保管しないでください。
- ★近くに対象年齢未満のお子様がいるところでは使用しないでください。
- ★プロペラは高速回転しますので、大変危険です。飛行中は人の顔や手に接触しないよう十分注意して安全に飛行させてください。特に目に接触した場合、失明の恐れがあります。
- ★水や火の中に入れたり、分解しないでください。

4.5 【重要】LiPoバッテリーについて >>

本製品にはLiPoバッテリーが使用されています。安全に使い続けるためには適切な状態を保ち、特性上のリスクを考慮して扱う必要があります。以下の注意事項を守り、正しくご使用ください。

1. 使い方

★アプリに表示される機体バッテリー残量を常に意識し、安全のため、30%以下になったら、すぐに帰還させてください。

★バッテリーに変形や匂いなどの異常を見つけた場合は絶対に使用せず、自治体によって決められた方法で廃棄してください。

★バッテリーは絶対に分解、改造しないでください。

★バッテリーの放電は、必ず機体で使用する場合のみとし、それ以外の放電は絶対に行わないでください。

★当製品は飛行機用の充電式バッテリーであり、ほかの用途には使用できません。

★過放電となってしまった場合は以降使用頂くことができません。放電し過ぎないようにご注意ください。また、軽い過放電を繰り返した場合もバッテリーが次第に傷んでいき、充電・放電の時間が極端に短くなり、使用できなくなります。

★バッテリーにUSBケーブルを差したまま放置すると過放電となり、使用できなくなる恐れがあります。速やかにバッテリーからUSBケーブルを抜いてください。

★バッテリーは消耗品です。交換・返品は致しかねます。

2. 充電時の注意

★必ず付属したUSBケーブルおよび専用充電器（別売り）を使い、充電中はその場から離れ、異常事態の

4.5 【重要】LiPoバッテリーについて >>

発生に備えてください。

★万一充電中にバッテリーが異常に過熱した場合には、絶対にバッテリーに触れず、USBケーブルを外して充電を中止してください。そして、温度が下がるまでバッテリーを安全な環境で保管して下さい。

★リチウムポリマー電池にはメモリ効果がないため、放電無しで追加充電が可能です。

3. フライト中の注意

★墜落・衝突などした際、バッテリーが強い衝撃を受けると膨張したり発火する恐れがあります。可燃物を避けた環境にしばらく放置し事態の生じないことを確認してください。

4. 電池を保管・保存する場合の注意

★LiPoバッテリーは室温で保管してください。性能の劣化を防ぐには25℃前後が最適です。

★自動車内や室内の窓際など、直射日光の当たる場所に放置するとバッテリーが高温となり、自然発火する恐れがあります。そのような場所での保管はお止めください。

★過放電による電池劣化防止のため、3ヶ月ごとに充電してください。もし電池を1年以上保管する場合は、良好な状態を維持するために、毎年1回はフル充電し、その後一度放電してください。LiPoバッテリー容量が40～60%程度になってから保管するようにしてください。

5. バッテリーの運搬・廃棄

★バッテリーの運搬に際しては、電池表面に力が加わらないよう、ケースに入れて運搬してください。

★バッテリー不用となった場合には、地方自治体によって決められた方法で破棄してください。

★絶対に火の中に投げ入れないでください。爆発します。



DEERC